

# 第1回委員会での主な意見と対応

資料1

	主な意見	対応	参照資料	
川崎港の位置・将来の定に関する意見	1	・産業構造の変化や脱炭素化、土地利用の用途転換などの展望を見据え、国際競争力の強化につながる川崎港の方向性についての検討が必要	・脱炭素化等の社会情勢の変化を踏まえた川崎港の方向性を整理し、川崎港の位置付けを検討した	資料2-1 方向性1
	2	・川崎港の現在の特徴・強みをどう生かすかが今後の課題		
	3	・川崎港のポジショニングを見据えつつ、選択と集中により長所を伸ばす戦略が必要	・川崎港の強みや役割といった特性を踏まえ、将来像を検討した	資料2-2
	4	・東京港や横浜港の間にある川崎港はどういった位置づけになるかが重要		
	5	・産業集積のメリットを生かし、各業界が連携して、川崎臨海部で生成・製造させる水素やグリーン電力を首都圏全体に供給することで、首都圏全体のCO2削減をこのエリアが先導的に担っていくことが大事		
	6	・首都圏に近接し、エネルギー産業が集積し、既存の電力網や水素パイプラインがあることのメリットを活かし、京浜臨海部全体で日本のカーボンニュートラルを先導する役割を担うことのできるエリアである	・川崎港の強みや特徴をいかに、カーボンニュートラル社会に貢献していくことを川崎港の将来像として検討した	資料2-2 将来像①
	7	・川崎臨海部は東日本へのエネルギー供給基地、素材の供給基地など大きな役割を果たしているが、今後、脱炭素化を目指しても新しい形で日本経済に貢献することが重要		
	8	・再生可能エネルギー等を受け入れ、加工、流通させる地域を川崎に形成させていくことは非常に大きな仕事		
	9	・港のカーボンニュートラルへの貢献として、港自身が使うエネルギーのカーボンニュートラル化やモデルシフトなどの視点が必要		
	10	・今後は脱炭素化、技術革新への対応が課題	・脱炭素化や技術革新へ対応する港を将来像として検討した	資料2-2 将来像①、⑥

# 第1回委員会での主な意見と対応

	主な意見	対応	参照資料	
川崎港の位置付け・将来の定像に関する意見	11	・働きやすさや人が集まりやすい環境を整備してほしい	・業務の前後を含め快適で充実した時間を過ごせる誰もが働きたいと思える港を将来像として検討した	資料2-2 将来像④
	12	・労働力不足が今後の課題		
	13	・荷主・ユーザー・船社・港湾労働者がさらに働きやすい環境の整備を検討したい		
	14	・川崎港が地域企業にとって活動しやすいインフラ(ソフト面も含めて)として機能していけたらよい		
	15	・社会的変化(人口減、高齢化)への対応という視点も必要	・国内外の人口や経済規模の動向などを踏まえて、柔軟に対応していく	資料2-2 将来像⑥
具体的な課題に関する見	16	・脆弱な交通アクセスの改善が課題	・物流の効率化や防災機能の向上等に向け、交通ネットワーク強化についての施策を検討する	-
	17	・トラック輸送のアクセス改善が喫緊の課題		
	18	・地震等で被災した場合には各地区が孤立化する恐れもある		
	19	・鉄道網の活用も検討するべき		
	20	・川崎港のコンテナターミナルは背後地が狭い課題があるが、鉄道やバージの利用も効果的		
	21	・市民にもっと港を知ってもらおう取組を行い、港の理解者を増やすことが重要	・社会学習、環境学習の場の提供や市民への効果的な情報発信など、市民認知度の向上につながる施策を検討する	-
	22	・港や物流業の理解者を1人でも多く作ることが大切		
	23	・職業体験などで港湾の仕事や、港の機能、物流の重要性を学習してもらうなど学校教育へ働きかける姿勢が重要		
	24	・港湾緑地は他港と遜色をとらないものであるが、知られていないため、行政からも周知が必要		
	25	・CO2の発生元を削減する取組も大事だが、港でCO2を吸収する機能(ブルーカーボンなど)の活用についても検討が必要		
26	・45フィートコンテナを川崎港で扱えるよう検討してほしい	45フィートコンテナも含めてコンテナ貨物取扱機能強化に向けた施策を検討する	-	

# 第1回委員会での主な意見と対応

	主な意見	対応	参照資料	
具 体 的 課 や 策 関 る 見 題 に す 意	27	・施設の老朽化、点検についてもIoTを利用することが必要	・新たな技術の活用等による港湾施設の効率的な管理運営に係る施策を検討する	—
	28	・施設の老朽化により、事故や災害の発生が懸念されるため、適切な対応が必要である。		
	29	・産業構造の変化を見据え、新しい産業立地につながる施策や拡張余地を残しつつ計画する必要がある	・将来の土地需要に対応できるような土地利用計画を検討する	—
	30	・サイバーポートの取組を、荷主の希望を取り入れ合理的に行うことが必要	・サイバーポートも含めデジタル技術の発展を機動的に取り入れる方法を検討する	—
	31	・電子化と保安について、国や地域間で連携して統一したルール作りが必要	・国が、港湾に関する各種情報や手続き等の電子化を図るサイバーポートの取組を進めているため、情報収集を行い、国と連携した港湾情報の電子化等に係る施策を検討する	—
	32	・大きな船が必ずしも日本にダイレクトに来ない時代が来るかもしれない。川崎のターミナルに合うような大きさの船が海外からダイレクトに来るようになるかもしれない。	・将来の情勢変化を踏まえコンテナ関連の施策を検討する	—
	33	・静穏度など港の使いやすさも意識した方がよい ・航行船舶の増加や大型化に対する航行安全の検討が必要	・本長期構想を受け今後実施する港湾計画の検討に当たっては、静穏度や船舶航行の安全性を考慮する	—
そ の 他	34	・JFEの高炉休止に伴い大水深岸壁が遊休化となるため、生かすことも考えられる	・扇島地区については、「扇島地区土地利用方針」の検討が別途実施されているため、その内容を本長期構想に反映させていきたい	—
	35	・大水深バースと土地を有するJFEのエリアは環境汚染を引き起さない最新鋭解撤工場の候補地の1つになるのではないか		